

いわき湯本病院 村上 さおり(看護助手／看護部)

功 績 ケアワーカーとして入職後勤続12年になる被推薦者は、10年の長きにわたり季節に応じた病棟の飾り付けを率先して行い、この定期的な飾り付けを、広く院内に定着させるきっかけを作り、入院される療養病棟の患者さん、ご家族に大変喜んでいただいた功績。

推 薦 者 布施 由美 (看護部長)

推 薦 理 由 10年前、長期療養の患者さんの療養環境を少しでも和ませようと、病棟の飾り付けを業務の間を縫って一人で開始した。その後仲間を募って、発展させ、この飾り付けが、生活活性化委員会のテーマになり、院内に定着させるまで10年、地道に率先実行した功績は大きく、病院環境活性化に大きな貢献をしているものと思われる。この長期の努力は、当院の理念である、地域に根付いた医療の提供「心のオアシス」の実践・実現に大変寄与していると考えられ、是非とも理事長賞に推薦したい。

内 容

被推薦者村上さおりは、12年前、看護助手として入職、ケアワーカーとして療養病棟に配属され勤務している。今日、とくに療養型の病棟では、患者さんも長期入院になるので、療養環境を少しでも和ませるために、いろいろな飾り付けを行っている。しかしながら、村上の入職した約10年以上前の当院では、時に飾り付けを行いはしたものの、定期的に飾り付けるということには行われていなかった。

入職して2年目頃、多忙なケアワーカーの日常業務が終了した後や、自宅で、手作りの飾り付けを作成し、病棟の看護管理室前や病棟廊下の一角に飾り付けることを始めた。正月には、正月飾り、お雛様の時期には雛人形、桜の時期には桜などシーズンに応じ時々のデザインを工夫し、小さな飾り付けが並んだ。当初は、同僚に声をかけることもなく、材料費も自前で作成していた。当院が東日本大震災被災に被災した大変な一時期しばらくの間は流石に中断したが、いつも、ひとりで黙々と続けていた。震災後、この工夫が他の病棟にも波及し、ケアワーカーの職員が少しずつ参加、療養病棟には四季折々の飾り付けが並んだ。今日では、生活活性化委員会でも取り上げられ、材料費も病院から支援が得られるようになり、協力者も得て、当初のシーズンごと時折の飾り付けであった方法から、毎月1回月代わりで定期的にテーマ・デザインを工夫し飾りつけるようになった。四季折々の雰囲気患者さんを楽しませている。この間10年、被推薦者村上の地道な努力は、入院患者さんの心をどれほど和ませているかは、時々来院する家族の方々との会話の中からも伺える。